

第1 吹田市肺がん検診及び結核検診実施状況

1 肺がん検診実施状況(令和5年12月18日時点)

(1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

【受診率の算出方法】

- ・算出対象は40～69歳。
- ・対象者数＝当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率＝（当該年度の受診者数÷対象者数）×100

【初回受診者について】

- ・前年度に吹田市肺がん検診の受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類される。

表1-1 令和2年度～令和5年度（4～9月）肺がん検診実績（40～69歳）

年度 区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (4～9月)
対象者数	148,064	148,911	149,812	
受診者数	8,707	9,332	9,350	4,071
受診率	5.9%	6.3%	6.2%	
初回受診者数	3,122	3,560	3,927	1,682
初回の割合	35.9%	38.1%	42.0%	41.3%

参考：令和3年度受診率比較（40～69歳）

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	6.0%	4.8%	6.3%

出典：1）令和3年度地域保健・健康増進事業報告 2）大阪府におけるがん検診令和3年度（2021年度）

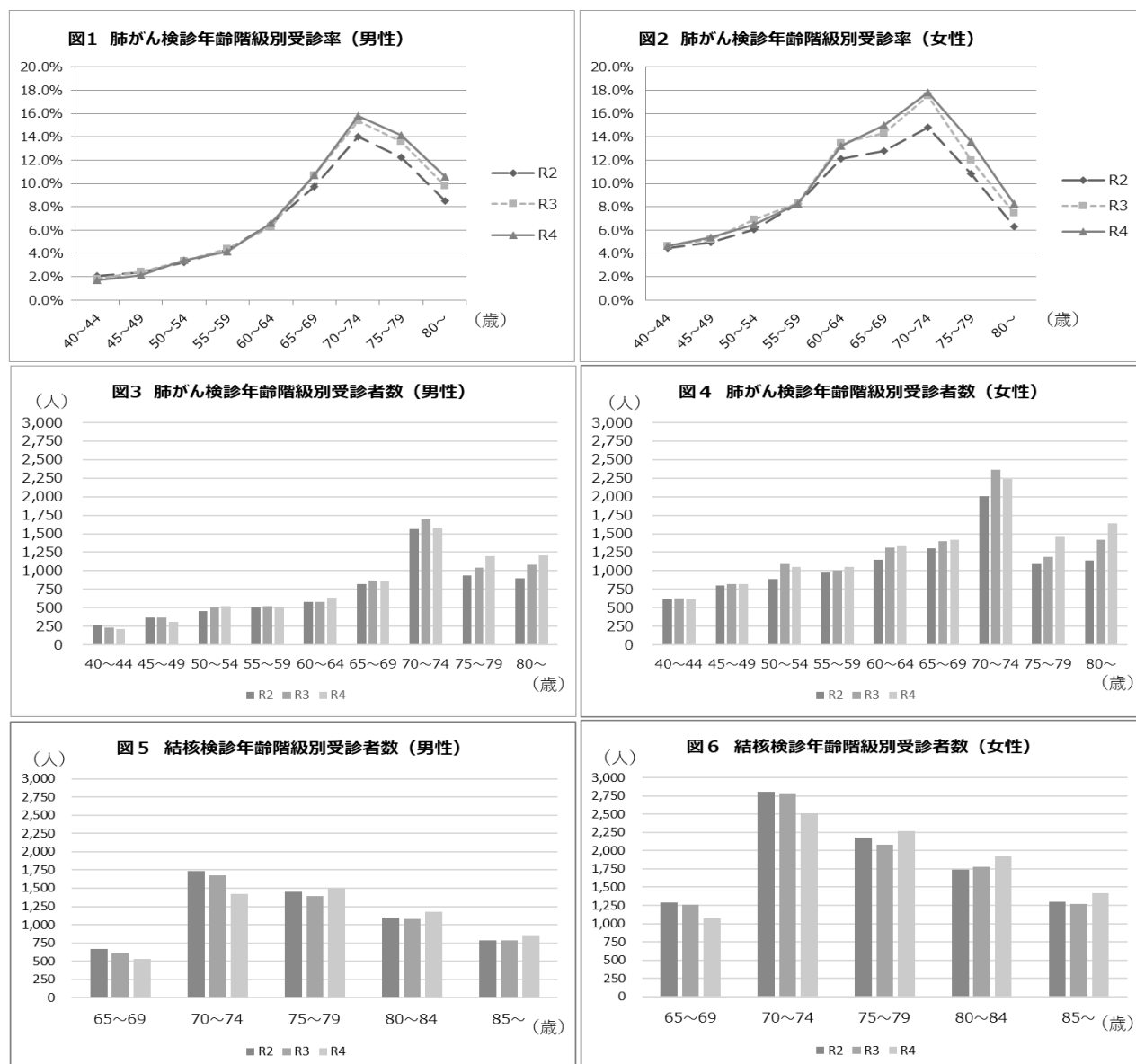
表1-2 令和2年度～令和5年度（4～9月）肺がん検診実績（40歳以上全年齢）

	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度（4～9月）		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	219,257			220,984			222,810					
受診者数	15,338	1,051	16,389	17,217	913	18,130	17,928	744	18,672	8,552	277	8,829
受診率	7.0%	0.5%	7.5%	7.8%	0.4%	8.2%	8.0%	0.3%	8.4%			
初回受診者数	4,816	452	5,268	5,692	421	6,113	6,640	313	6,953	3,152	125	3,277
初回の割合	31.4%	43.0%	32.1%	33.1%	46.1%	33.7%	37.0%	42.1%	37.2%	36.9%	45.1%	37.1%

【結果】

- ・令和4年度の40～69歳の受診率は個別検診・集団検診を合わせると6.2%であった。令和3年度と比較すると、0.1ポイント下降している。（表1-1）
- ・令和4年度の40歳以上の全年齢での受診率では、令和3年度より0.2ポイント上昇している。（表1-2）
- ・初回受診者の割合が年々増加傾向である。（表1-1、1-2）

(2) 令和2年度～令和4年度 肺がん検診性別・年齢階級別受診者数・受診率及び結核検診性別・年齢階級別受診者数



【結果】

ア 肺がん検診について

- ・各年度の各年齢階級とも、受診率は男性より女性のほうが高くなっている。また、男女ともに70～74歳の受診率が最も高い。（図1、図2）
- ・年齢階級別受診者数では、男女ともに70～74歳が最も多くなっている。また、令和3年度と比べた令和4年度の受診者数は、男女ともに70～74歳が最も減少したが、男女ともに75～79歳が最も増加し、全体では増加している。（図3、図4）

イ 結核検診について（図5、図6）

- ・受診者数は各年齢階級とも男性より女性が多く、令和4年度では、男性は75～79歳が最も多く、女性は70～74歳が最も多くなっている。
- ・受診者数は65～74歳は減少傾向にあるが、75歳以上の年代で増加傾向にある。

(3) 年次別要精検者の状況について

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率 = 要精検者数/受診者数*100
- ・精検受診率 = 精検受診者数/要精検者数*100
- ・早期がん割合 = 早期がん/がん発見数*100
- ・がん発見率 = がん発見数/受診者数*100
- ・陽性反応適中度 = がん発見数/要精検者数*100

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚生省は令和5年度に各プロセス指標値の基準値を決定し公表している。

<喀痰検査について>

国の指針による対象者(50歳以上で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)600以上の方)にて集計。

(参考) 喀痰細胞診の指導区分

- A: 判定不能
- B: 異常なし
- C: 6か月以内の再検査
- D: 要精検(悪性の可能性のある細胞を認めたため、精密検査が必要)
- E: ただちに要精検(悪性の腫瘍細胞を認めたため、早急に精密検査が必要)

表 1-3 令和2年度～令和5年度(4～9月) 肺がん検診要精検者
(X線判定:E 喀痰判定:D・E) 内訳(40歳以上)

	令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)
	個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰	
受診者数	15,338	1,051	924	16,389	17,217	913	935	18,130	17,928	744	971	18,672	8,552	277	439	8,829
要精検者数	519	36	0	555	635	25	0	660	595	16	1	612	287	7	0	294
要精検率	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%	3.7%	2.7%	0.0%	3.6%	3.3%	2.2%	0.1%	3.3%	3.4%	2.5%	0.0%	3.3%
精検受診者数	497	34	—	531	614	24	—	638	567	15	1	583	234	6	—	240
精検受診率	95.8%	94.4%	—	95.7%	96.7%	96.0%	—	96.7%	95.3%	93.8%	—	95.3%	81.5%	85.7%	—	81.6%
精検結果内訳	異常なし	218	13	—	231	254	9	—	263	215	9	—	224	73	1	—
	がん	12	0	—	12	12	0	—	12	14	0	—	14	5	—	5
	がん疑い	7	1	—	8	8	1	—	9	7	1	—	8	6	—	6
	GGO/GGN	1	0	—	1	11	0	—	11	9	0	—	9	2	—	2
	転移性肺腫瘍	1	0	—	1	2	0	—	2	3	0	—	3	0	—	0
	その他	258	20	—	278	327	14	—	341	319	5	1	325	148	5	—
未受診／未把握	22	2	—	24	21	1	—	22	28	1	—	29	53	1	—	54
がん発見率	0.08%	0.00%	0.00%	0.07%	0.07%	0.00%	0.00%	0.07%	0.08%	0.00%	0.00%	0.07%	0.06%	0.00%	0.00%	0.06%
陽性反応適中度	2.3%	0.0%	0.00%	2.2%	1.9%	0.0%	0.00%	1.8%	2.4%	0.0%	0.00%	2.3%	1.7%	0.00%	0.00%	1.7%

【参考】プロセス指標比較(令和元年度)(40歳以上)

	全国	大阪府
要精検率	2.12%	2.54%
精検受診率	83.4%	87.5%
がん発見率	0.06%	0.08%
陽性反応適中度	2.71%	3.25%

参照: 国立がん研究センター がん情報サービス
「がん登録・統計」 がん検診のプロセス指標

【結果】(表 1-3)

- ・令和2～4年度では、精検受診率は国の基準値を満たしている。
- ・要精検率については、各年度とも基準値を上回っており、基準値を満たしていない。
- ・がん発見率、陽性反応適中度については、各年度とも基準値を下回っており、基準値を満たしていない。

【参考】精度管理指標と基準値(40～74歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.4%以下
がん発見率	0.10%以上
陽性反応適中度	4.1%以上

参照: 厚生労働省 令和5年6月
がん検診のあり方に関する検討会

【参考】旧プロセス指標

精検受診率	許容値	70%以上
	目標値	90%以上
要精検率	許容値	3.0%以下
がん発見率	許容値	0.03%以上
陽性反応適中度	許容値	1.3%以上

2 肺がん検診(個別検診)のX線判定状況(令和5年12月18日時点)

＜X線判定について＞（吹田市の読影体制）

一次読影にて d・e 判定：要精検 b・c 判定は二次読影へ

二次読影にて b・c 判定：最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却

二次読影にて d・e 判定：読影委員会(三次読影)へ

（参考）X線判定の意味（最終判定は大文字で記載）

b：異常所見を認めない

c：異常所見を認めるが、精査を必要としない

d：異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる(肺がんは否定)

e：肺がんの疑い ※国の報告に従い、E判定を肺がん検診要精検とする

表 2-1

令和4年度肺がん個別検診読影内訳(人)

受診者数 17,928 人

＜一次読影＞		＜二次読影＞		※＜読影委員会＞		
b	14,501	b	13,888	B	57	14.1%
c	3,087	c	3,297	C	47	11.7%
d	44	d	7	D	0	0.0%
e	296	e	396	E	299	74.2%
						403 2.3%

表 2-2

令和5年度（4～9月）肺がん個別検診

読影内訳(人) 受診者数 8,552 人

＜一次読影＞		＜二次読影＞		※＜読影委員会＞		
b	6,972	b	6,722	B	24	14.0%
c	1,406	c	1,484	C	19	11.0%
d	16	d	2	D	0	0.0%
e	158	e	170	E	129	75.0%
						172 2.1%

＜＜令和4年度最終X線判定＞＞		
B	13,944	77.8%
C	3,345	18.7%
D	44	0.2%
E	595	3.3%

＜＜令和4年度読影委員会結果＞＞	
がん	5
うち0～I期がん	2
陽性反応的中度	1.7%
がん照会中	3

＜＜令和5年度（4～9月）最終X線判定＞＞		
B	6,746	80.1%
C	1,503	17.8%
D	16	0.2%
E	287	3.4%

【結果】

- ・令和4年度は受診者数 17,928 人のうち、一次読影で b・c 判定となった 17,588 人に対して二次読影を実施し、d・e 判定となった 403 人に対して三次読影を実施している。

3 肺がんであったケースの詳細（令和5年12月18日時点）

表 3-1 令和4年度 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 3-2 令和5年度（4～9月） 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和4年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された21人のうち、肺がんの病期分類が確定している者は13人であった。男性が8人、女性が5人と男性が多い。年齢は、60～64歳が2人、65～69歳が1人、70～74歳が2人、75～79歳が4人、80歳以上が4人であった。
- ・13人のうち5人がⅠ期で発見されている。そのうち初回2人、非初回3人であった。Ⅱ期以上で発見されたがんは8人で、そのうち初回4人であり、非初回は4人であった。また、13人のうち、組織型は腺がん8人、扁平上皮がん3人、その他の組織型が1人であった。なお、令和4年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された21人のうち、喫煙者（過去喫煙者も含む）は12人であった。
- ・令和5年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された11人のうち、肺がんの病期分類が確定している者は2人である。

4 詳細なプロセス指標について

（1）一次医療機関ごとのプロセス指標（資料4）

【結果】

- ・令和5年度当初、協力医療機関は123医療機関であった。そのうち、令和4年度に受診者がいた協力医療機関は121医療機関であった。令和4年度の一次医療機関別プロセス指標について、受診人数にもばらつきがあるため評価は容易ではないが、要精検率が基準値を達成している医療機関は31医療機関、精検受診率が基準値を達成している医療機関が77医療機関、がん発見率が基準値を達成している医療機関は12医療機関、陽性反応適中度が基準値を達成している医療機関は10医療機関であった。

（2）二次読影医のプロセス指標（二次読影医別プロセス指標：資料5）

表 4 二次読影の判定状況（吹田市全体）

	二次読影数 (人) ※1	読影委員会対象者 (人) ※2	要精検者数 (人) ※3	要精検率	精検受診者数 (人)	精検受診率	がん発見数				
							0～Ⅰ期がん (再掲)	0～Ⅰ期がん 割合	がん発見率	陽性反応 適中度	
令和4年度	17,588	403	299	1.7%	282	94.3%	5	2	40.0%	0.03%	1.7%

*1：一次読影にてb・cと判定した数 *2：二次読影にてd・eと判定した数

*3：最終読影にてEと判定した数

【結果】

- ・要精検率、精検受診率は基準値を満たしている。がん発見率、陽性反応適中度については基準値を下回っており、基準値を満たしていない。

5 結核検診実施状況(令和 5 年 12 月 18 日時点)

表 5 令和 2 年度～令和 5 年度（4～9 月） 結核検診実績

		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度 (4～9 月)
対象者数		89,694	90,049	90,403	
受診者数		15,071	14,709	14,676	6,629
受診率		16.8%	16.3%	16.2%	
要 精 検 者 数	結核疑い	40	31	44	24
	肺腫瘍性病変	337	314	327	135
	合計	377	345	371	159
要精検者率		2.5%	2.3%	2.5%	2.4%
精検受診者数		328	311	324	128
精検受診率		87.0%	90.1%	87.3%	80.5%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	105	116	95	38
	活動性結核	1	0	0	0
	がん	13	7	10	0
	転移性肺腫瘍	1	0	1	0
	がん疑い	5	4	10	5
	その他	203	184	208	85
未受診/未把握		49	34	47	31
がん発見率		0.09%	0.05%	0.07%	0.00%
陽性反応適中度		3.45%	2.03%	2.70%	0.00%

- ・対象者数＝当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率＝（当該年度の受診者数÷対象者数）×100

【結果】

- ・結核検診から結核は令和 2 年度に 1 人発見され、令和 3 年度、令和 4 年度、令和 5 年 9 月受診者までで 0 人である。

6 肺がんであったケースの詳細（令和 5 年 12 月 18 日時点）

表 6-1 令和 4 年度 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 6-2 令和 5 年度(4～9 月) 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和 4 年度に肺がんと診断された 10 人のうち、病期分類が確定している者が 9 人で、性別は男性が 2 人、女性が 7 人年齢は、70～74 歳が 1 人、75～79 歳が 3 人、80 歳以上が 5 人であった。肺がんの病期分類が確定している 9 人のうち、3 人がⅠ期で発見されており、初回 2 人、非初回 1 人であった。Ⅱ期以上で発見されたがんは 6 人で、初回 4 人、非初回 2 人であった。また、組織型は、腺がん 8 人、不明 1 人であった。
- ・令和 5 年度に肺がんと診断された又は肺がん疑いと診断された 5 人については、現在医療機関照会中である。